

社会福祉法人 恵友会
こども発達支援センターぴーち

支援プログラム
(放課後等デイサービス)

作成日：令和8年3月4日

法人（事業所）理念	<p>1. 利用者の人権を尊重し、地域に開かれた利用者中心の施設づくりを目指します。 2. 利用者の個々の希望や個性を伸ばす支援やサービスを提供します。 3. 新たな福祉ニーズに先駆的に対応し、地域福祉の拠点としての役割を担います。</p>				
支援方針	<p>就学後の療育が必要な小中高生を対象に、放課後や長期休みを利用し、制作・運動・感覚遊び・季節の行事などを取り入れ、楽しみながら生活スキルやコミュニケーションスキルを学べる場所を提供していきます。保育士や児童指導員をはじめ、言語聴覚士や作業療法士、公認心理師などが常に連携して集団療育に入っていくことで、遊びや日常生活に即した困り感を多面的に把握・評価し、発達段階や特性に合わせた丁寧な支援をしていきます。また、お子さん一人ひとりが持っている長所や関心を生かし、自己を十分に発揮できる場を用意していくことで自己肯定感を高め、生き生きと生活していくことが出来るように環境を整えていきます。</p>				
営業時間	9 時 0 分から 17 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり	なし（送迎可能地域かどうか、個別にご相談ください）	
支援内容（身辺自立中）		支援内容（身辺自立済）			
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校入学時や新規利用時は新しい環境に慣れずに、心身共に落ち着けなくなりがちなので、まずは生活リズムの安定と信頼関係の構築を図っていきます。ひーちでのルールを明確に伝え、一貫した関わりや促しをしていくことで、善悪の区別を育み、社会に受け入れられる生活習慣の定着を図っていきます。 ・健康で安全に過ごすことを目標に発達段階や性別にあった身辺自立や衛生管理・第二次成長期への意識付けとルーティン化を図っていきます。偏食やトイレトレーニング・性衝動のコントロールなどに難しさを感じることもあるので、スモールステップで許容範囲を広げ、自立と生活の安定に向けた衣食住の練習を行っていきます。 ・新年度や長期休み期間などは、生活リズムの安定を意識した生活・活動を心がけ、静と動のバランスをとれるようにプログラムを組んでいきます。 ・食育活動を通して、様々な形態や味、においの食べ物を見る・触る・食べる経験につなげ、食事の楽しさや摂食機能の拡がりを促していきます。また、一口量の調整ができない子も多いので、適切な飲食やマナーもあわせて習得できるように働きかけていきます。 ・服薬やてんかん対応、インスリン注射などの医ケア対応は、看護師とその都度相談のうえ、ひーちでの過ごし方を決定していきます。 		<ul style="list-style-type: none"> ・衣類の調節を一人でできるように働きかけていきます。気温や体調の変化に合わせて衣類の着脱をしたり、汗や雨でぬれた時に着替えたりするなど、その都度、衣類に関心に向け、調節する意味合いを伝えていくことで、大人がいない場面でも自分の判断で行えるようにしていきます。 ・持ち物の管理などを一人でできるように練習していきます。ハンカチや鉛筆など、小物の管理も意識できるようにその都度声掛けしていくことで、定着を図っていきます。 ・学校の行事や授業内容での疲れや負担を考慮し、静と動の活動バランスを意識していきます。心身の発達や安定につながるように、心と身体の調和を大切にしていきます。 ・手洗いや歯磨き、トイレの使い方など、社会的に受け入れられるスタイルで行えるように練習していきます。使ったあとの後始末などにも目を向けられるように働きかけていきます。 ・食育活動や野菜栽培を通して、様々な形態や味、においの食べ物を見る・触る・食べる経験につなげ、食事の楽しさや必要性を習得できるように支援していきます。 ・服薬やてんかん対応、インスリン注射などの医ケア対応は、看護師とその都度相談のうえ、ひーちでの過ごし方を決定していきます。 		
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士や言語聴覚士による身体機能や感覚、運動の評価をもとに、全身運動や微細運動を意図的に活動に組み込み、バランスの良い身体発達を促していきます。戸外遊びや風船パレーなど全身をつかって遊びこめる時間帯を確保していくことで、体力や筋力の向上、心身の開放を図っていきます。また、適切な力の加減や動かし方を習得しやすいように、時に手を添えて一緒に動作を行っていくことで、体得できるように環境を設定していきます。 ・リズム遊びや椅子取りゲームなどを通して、音への過敏さや身体のコントロールを楽しみながら学べるようにしていきます。言葉で伝えるのが苦手な子ども、身体表現しやすい機会を用意していきます。 ・身体機能に手助けが必要なお子さんに関しては、安全の確保をしたうえで、本人の興味関心をつましく利用しながら、日常生活に必要な移動能力の向上や身体・感覚機能の拡大を後押ししていきます。 ・視覚や聴覚、触覚などの過敏や鈍麻などの偏りに配慮し、環境調整をしていくことで、社会生活での安心を確保し、外界の世界に興味を深められるように働きかけていきます。 		<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士や言語聴覚士による身体機能や感覚、運動の評価をもとに、全身運動や微細運動を意図的に活動に組み込み、バランスの良い身体発達を促していきます。自分の身体バランスのコントロールにプラスし、物の動作における目と手の協応や力加減など、体育や図工、板書などにもつながる活動を意識していきます。 ・文字や形のとらえ方など、本人の特性に配慮し、枠や部分分けした書きの練習をしていきます。また、消しゴムの使い方など力加減や手の動かし方・向きなどにもその都度働きかけていくことで、学校の授業に必要なスキルの習得を後押ししていきます。 ・視覚や聴覚、触覚などの過敏や鈍麻などの偏りに配慮し、環境調整をしていくと共に、日常生活の中で、それらを自分で回避したりコントロールしたりできるように練習していきます。 		
本人支援 認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に合った行事や活動を取り入れていくことで、季節や時間の流れを感じたり、イベントに親しみをもって楽しんだりできるように年間を通して環境を整えていきます。 ・物事の原因と結果をその都度わかりやすく伝えていくことで、物事の事象を習得しやすいように働きかけていきます。繰り返し同じことを同じように知らせていくことで、理解できることを増やし、見通しや善悪の判断にもつながるように支援していきます。 ・遊びや生活の中で、物・数・色などの身近な生活概念を形成できるように、繰り返し働きかけていきます。いろいろなことに挑戦できる環境を用意し、知っている世界を深めていくことにも、見通しをもって、安心して行動できるように支援していきます。 ・長期休みや土曜保育の際には、外出レク（法人内や地域のお祭り）・リンゴ狩りなどを取り入れ、社会ルールへの認識を高めたり、知っている世界を拡げたりしていきます。 ・ひーちの安全計画に基づき、非常災害時での身の守り方や知識・情報の習得を繰り返し練習していきます。 		<ul style="list-style-type: none"> ・季節に合った行事や活動を取り入れていくことで、期待と見通しをもって自発的に活動に参加できるように支援していきます。また、行事の意味合いや準備の計画も一緒に立てていくことで、日本や住んでいる地域への理解を深め、社会生活の基盤を作っていきます。 ・物事の原因と結果をその都度わかりやすく伝えていくことで、物事の事象を習得しやすいように働きかけていきます。なぜそうなるのか、どうしたらよいと思うのかなどあわせて振り返る機会を設けていくことで、理解できることを増やし、見通しや善悪の判断にもつながるように支援していきます。 ・遊びや生活、課題の中で、空間・時間・数・色などの概念を深めていきます。年齢や発達段階に応じた経験を取り入れていくことで、理解できる事柄や受け入れられる事柄を増やし、日常生活の中で応用できるようにしていきます。 ・納得ができないことや受け入れがたいことに出会ったときにどんな風に考えたらよいのか、どこまでを可能ラインにもっていくのかなど、その都度丁寧に掘り下げていくことで、物事への許容範囲を広げ、生きづらさの軽減を図っていきます。 ・読み書き計算など、基本的技能の習得とに日常生活に必要な概念の獲得を促していきます。 ・ひーちの安全計画に基づき、非常災害時での身の守り方や知識・情報の習得を繰り返し練習していくことで、いざという時に自分で自分の命を守るようにしていきます。 		

	<p>言語 コミュニケーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には集団療育の中で、言語聴覚士や保育士を中心に、他者とのやりとりを深められるように働きかけていきます。本人の要求や気持ちに丁寧に言葉やジェスチャーを添えていくことで、言葉と意味の一致を図り、理解できる言葉やジェスチャーを増やしていきます。 語彙力や理解力など、必要であれば言語聴覚士に検査をとってもらうことで、発達段階にあわせた個別療育をおこなっていきます。集中しやすい個室の中で、言葉と意味の一致や知っている言葉やジェスチャーを利用したやりとりを引き出す練習をしていきます。 言葉や指差しが出ないお子さんには、ジェスチャーや絵カード、実物提示、マカトンサインなどの視覚的なツールを用いて、共通認識の事柄を増やしていきます。また、相手に伝えなくてはならない状況を意図的に作っていくことで、相手に要求や気持ちを表出する意味合いを設け、言葉や発声、ジェスチャーの表出に繋げていきます。 聴覚や口控機能に支援が必要な場合には、手話やマカトンサインをご家族や学校と共有し、ひーち内だけでなく、施設の外でもコミュニケーションツールとして応用できるように働きかけていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語聴覚士と個別の療育を中心に他者と気持ちや出来事の共有を図ったり、目に見えない気持ちや過去の出来事を言葉で伝えたりする練習を取り入れていきます。誰が何をしたのか、順序だてて話すことが出来るように具体的な表出モデルを示していくことで、習得に結びつきやすいように促していきます。 語彙力や理解力など、必要であれば言語聴覚士に検査をとってもらうことで、発達にあわせた支援の手引きにいきます。学校や教育委員会とも連携を図り、支援の見立てや環境設定の仕方など、トータル支援に繋がっていきます。 相手の意図を理解したり、状況に合わせた言葉を使ったりできるように、課題の中で継続的に取り上げ、練習を積み重ねていきます。「感情のエレベーター」などのワークを利用することで、自分の感情に目を向け、アンガーコントロールや認知の修正につながるよう働きかけていきます。 聴覚や口控機能に支援が必要な場合には、通院先の担当職員と情報共有を行い、適切な支援に結び付くように調整していきます。 吃音が見られる際には、場面や状況を確認しながら、安心できる環境づくりを心がけ、課題の設定や関わる人との関係性などにも配慮していきます。
	<p>人間関係 社会性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活ややりとりを通して、家族以外の身近な人との愛着形成・信頼関係を築いていきます。様々な学校や学年の子供たちと一緒に過ごす中で、お互いに助け合ったり、気づきや学びを得たりする機会を作っていくことで、人と触れ合う心地良さや一緒に過ごす安心感を得られるように環境を整えていきます。 今後、他者との共存の中で生きていくことを踏まえ、集団生活でのルールを知り、それらを習得していくことで、社会でも受け入れられるようにしていきます。 人に興味がない場合には、物やスペースを介して、他者とやりとりする機会を意図的に設け、人への意識が高まるように働きかけていきます。対人面でのやりとりが増えてきた子に関しては、職員が仲介に入りながら、他者との距離感ややりとりの仕方のモデルを具体的に知らせていくことで、習得しやすいように働きかけていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援者や同年代の子と協力したり、相談しあったりするような経験を積み重ねていくことで、信頼関係を深め、コミュニティ形成の土台作りを練習していきます。 ルールを学びながら集団生活に参加することで、他者とおおきなトラブルにならないように、また他者との適切な距離感を学び、お互いを尊重しあえるような仲間づくりを練習していきます。 どんな時にどんな気持ちや行動になってしまうのか、自分の傾向を知り、他者との折り合いの付け方や自己のコントロールの仕方を一緒に模索していきます。 場面緘黙や不登校の際には、学校やご家族とも相談しながら段階を経て過ごし方や人との関わり方を検討していきます。本人の興味や負担感に合わせ、スモールステップで働きかけていきます。 係や当番活動を通して、社会的役割を担う練習をしていくことで、責任感や協調性を深められるように支援していきます。
	<p>家族支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活や発達段階の変化に伴うニーズや困り感の変化をタイムリーに察知し、お家の方と一緒に支援内容や利用の仕方を検討していきます。ひーちの利用終了後も、必要であれば、いつでも相談できる環境を確保していくことで、安心して子育てに向き合えるようにしていきます。 ペアレントプログラムやペアレントトレーニングを始め、各種勉強会を実施しています。また、個々の家庭状況に合わせ、必要な時には個別相談も受けられるように準備し、ライフステージにあった支援や今後の見通しを共有していきます。 必要であれば、WISC-IVや語彙力検査などの各種検査を行い、発達段階の確認や関わり方についての相談、進級支援などを行っています。 お子さんを取り巻く環境として、円滑な家族関係の構築や兄弟支援を意図した関わり・情報と一緒に模索していきます。 育児の負担感や緊急時の一時預かりを補うために、子育て短期支援事業（トワイライト・ショートステイ）を実施し、トータル支援を心がけていきます。 保護者会を開催し、家族同士のつながりの場を設けています。また、直接保護者のニーズや期待・希望を把握し、今後の施設運営にいかせるように努力していきます。 	<p>移行支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校入学時には、学校や教育委員会とこまめに情報を共有していくことで、その子にあった関わり方をスムーズに引き継げるようにしています。必要であれば、ひーちでの過ごし方や職員の促し方を見に来てもらい、環境の変化に適切にできるように調整しています。年度切り替えの就学支援会議などでは、進学予定のクラスに入った際の今後の見通しなどもあわせて検討していくことで、見守りや移り変わりをサポートしています。 学年の切り替えにより、登校手段が変更する際には、必要なスキルや安全管理をお家の方とも確認し、負担少なく移行していくことが出来るように支援していきます。 地域社会への参加やインクルージョンが円滑にすすむように、保育所等訪問支援などの併用をすすめることで社会での理解や受容にも並行して働きかけていきます。法人内のお祭りや地域の行事などにも参加する機会を設けていくことで、地域の中での居場所や生活空間を知り、今後の見通しにつながるよう支援していきます。 特別支援学校のお子さんには、法人内の就労施設や作業内容などを適宜周知していくことで、見通しをもちながら生活できるように働きかけていきます。
	<p>地域支援・地域連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> さくら市を中心に学校や学童・他事業所などと連携を図り、統一した支援や適切な関わり方の周知を図っていきます。外部からの見学や相談なども随時受け入れることで、地域に開かれた施設を目指していきます。 栃木県から委託を受け、栃木県発達障害者地域支援マネージャーとして、担当区域の会議への参加や、研修会開催などを行っています。各地域の自立支援協議会などにも参加し、ニーズの拾い上げや情報収集を行うことで、県としての事業に力を入れていってほしいのかが、県全体のボトムアップを図っています。 家庭支援センターや児童館にて、健診や子育て相談、勉強会などの発達支援を実施しています。家庭支援センターでは、健診などにも参加することにより、発達の遅れや子育ての困り感などの早期発見・早期支援につながるようになっています。地域の中核的機能事業所として、市や教育委員会、医療機関等の関係機関とも連携をとり、適切な支援に繋がるように働きかけていきます。 保育所等訪問支援事業を通して、学校や学童などでも適切な支援を継続して行えるように促していきます。また、地域の中で適切な支援の考え方が定着していくように、社会に向けても発信していくことで、インクルージョンの推進をしていきます。 	<p>職員の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月職員勉強会を実施し、発達特性や支援の仕方、児童福祉・障害福祉について学ぶ機会をつくっています。インプットだけではなく、アウトプットの時間を意図的に設けていくことで、適切な情報を要約して相手に伝える練習も取り入れています。 地域の各種勉強会・研修等（※1）にも参加し、それぞれの職種に求められる専門性を高めています。専門性を幅広く発揮するために、職種以外の知識・理解も深められるような環境を整え、会議や施設内研修の場では多職種連携を意識した内容の共有と理解・受容を図っています。 （※1：BCP研修、AED研修、感染対策コーディネーター養成研修、強度行動障害支援者養成研修、苦情解決委員会、虐待防止委員会、障害者差別防止法研修、医療的ケア児支援者養成研修、喀痰吸引研修、不審者対応研修等） キャリアデザインやコミュニティ構築研修などを定期的に取り入れ、施設全体でエンゲージメントを高められるようにしています。
	<p>主な行事等</p>	<p>子供向け：節分・ひなまつり・七夕・夏祭り・プール遊び・ハロウィン・クリスマス・避難訓練・野菜づくりなど 保護者向け：ペアレントプログラム・ペアレントトレーニング・保護者会・ひあカフェ・きょうだい勉強会・言語療育勉強会・作業療法勉強会など</p>	